

「感動をありがとう」

北京冬季五輪のアルペンスキー女子回転に9日、横手市の向川綾子選手(30)富士フィルムB1秋田IIが出場し、2本滑りきった。母淳子さん(59)と祖母絹子さん(84)、向川選手の母校の中学校の生徒らがテレビ観戦し、滑りを見守った。

淳子さんと絹子さんは横手市の自宅でテレビ中継に見入った。淳子さんは「2本とも最後まで滑り、記録が残ってほっとした。レースを終えて笑顔を見せていたので、自分のスキーができて満足しているのではないかと話した。レース後すぐに向川選手から電話があり「2本目は上の方で失敗した」と話していたという。淳子さんは「声が弾んでいて(大回転を含め)4本滑り終え、充実している様子が感じられた。五輪を経験し、スキーへの気持ちがどう変わったか聞くのが楽しみ」と語った。

向川選手が小学生のころから指導している仙北市の日高英樹さん(56)は日高建設代表取締役IIは「非常に難しいコースで欧州や北米の選手も苦しんでいた。大きなミスがなく、体の重心を前後に移すこともなかった。30位以内を期待したが、よく頑張った。け

アルペン代表・向川選手の地元関係者

がを乗り越え、諦めないでやっていた。感動した」とたたえた。

横手市の横手北中学校3年生120人はクラスごとに応援。3年1組の26人は交流ホールの集合し、「ガンバレ! 向川綾子先輩」と書かれた横断幕や、横手市のマークが記された小旗を持ってテレビ越しに応援した。

応援団員の佐藤太陽さんは「必勝」と記した鉢巻き姿で「地元の先輩が五輪で滑っているのは本当に誇らしい」と笑顔を見せた。島田果凛さんは「スピード感があって、大回転よりも思い切りの良さが伝わってきた。『感動をありがとう』と伝えたい。これからスキーを頑張つて続けてほしい」と今後の活躍を期待した。

職場の富士フィルムB1秋田の上司で、向川選手の入社時から見守ってきた同社員南

充実の滑り、健闘たてる



横断幕を持って向川選手を応援する横手北中の生徒

支店長の工藤浩睦さん(58)は、晴れ舞いで滑る姿に「目が熱くなった。帰ってきたら『よく頑張ったね』と伝えたい」と話した。

2018年平昌大会の代表は、晴れ舞いで滑る姿に「目に涙が溢れ、営業所を訪れた際、人目をばからず涙を流したという。『本当に悔しかったのだらう。北京を目指し、トレーニングにより一層気持ちが入っていた。大舞台で滑りきってくれて本当に良かったと感謝の気持ちだった。同社の吉田進社長(61)はゴールした後、両手を上げて感情を爆発させた姿が印象に残ったという。『やりきったと思える滑りができたということだらう。元気なガッツポーズを見てうれしかった』

(伊藤寛明、阿部拓郎、伊藤正孝)



女子回転1回目を終えた向川選手II延慶